

別岨古窯群周辺遺跡分布図 (中世の古窯跡を中心に)



まとめ

今回の発掘調査では3基の山茶碗を焼成した窯跡が見つかりました。そのうち2基は天井部分が比較的良好に残っていました。12世紀後半から操業が始まり、一時期操業に空白時期が見られるものの、13世紀初頭に再び操業が行われたことがわかりました。窯跡の操業順序は、古い順に1号窯→3号窯→2号窯と考えられています。

発掘調査現場周辺でも大高インター造成時に多くの山茶碗焼成窯が調査されています。今回もこれら一連の流れの窯跡と考えられ、さらに今後発掘調査が進めば、大高地区の山茶碗焼成窯、および生産に係わった人々の暮らしぶりがより明らかになることでしょう。

べっそこようぐん
別岨古窯群 地元説明会資料

別岨古窯群について

別岨古窯群は大府市共和町別岨に位置する中世（12世紀後半～13世紀初頭）の数基の古窯が集まった遺跡です。この地域は同時期の窯跡が随所で確認されている場所でもあります。別岨では、かつて愛知県が行った遺跡分布調査でも数基の窯跡が地表に露出しているのが確認されていました。

今回、企業庁が工業団地を造成するにあたり、2009年度に事前調査を行いました。調査では少なくとも2基の窯とそれらの窯から出た灰、焼成に失敗した椀や皿などを捨てた灰原とよばれる層が広がっていることが確認されました。この結果を受けて、2010年4月末から本調査に入りました。



■ 2号窯 焼台検出状況

- 日時 平成22年6月12日(土) 午後2:00～
- 場所 大府市共和町 別岨古窯群調査区
- 主催 (公益)愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
- 支援 ナカシャクリエイテブ株式会社



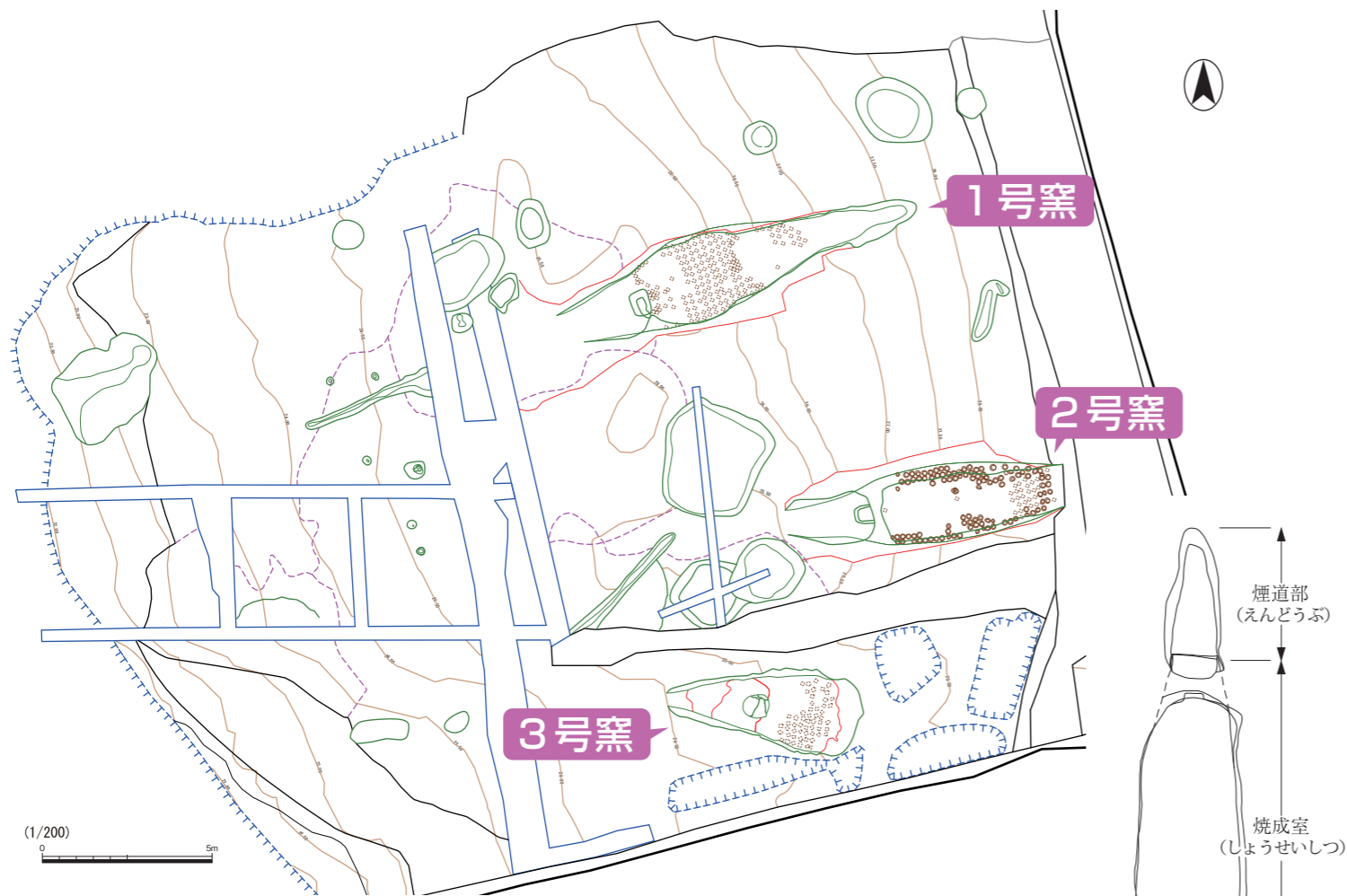
全体図



■ 1号窯 焼台痕検出状況



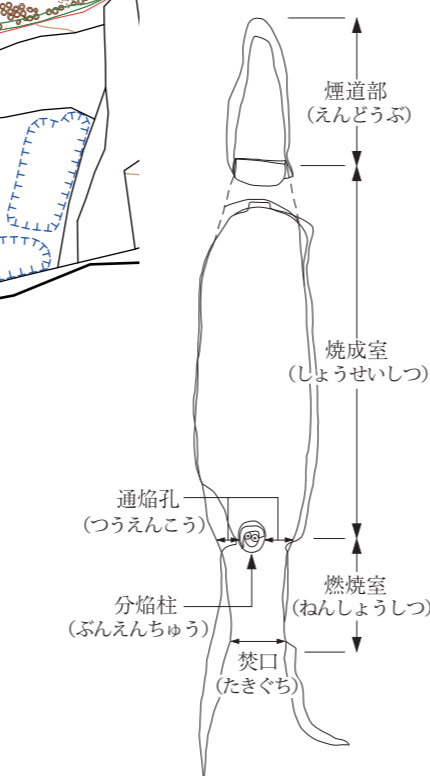
■ 2号窯 掘削途中



■ 3号窯 完掘状況



■ 調査前風景



窯体部位名称

青木1997をもとに作成

NA311号窯
(愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 2005) より転載

調査の成果

今回の発掘調査では、平安時代末から鎌倉時代に流通した山茶碗を生産した窯が3基見つかりました。そのうちの1基は後世の攪乱を受けており、状態は良くありませんでしたが、残りの2基は天井部分や焼成室が残るなど、残存状況は比較的良好と言えます。

■ 1号窯

天井部分は一部しか残存していませんでしたが、燃烧室・分焰柱が検出されました。焼成室には、山茶碗を焼くときに斜面へ固定する為の焼台を置いた痕跡も残っています。前庭部には、南隣の2号窯で出た失敗品や掻き出した炭などを捨てた灰原が堆積していました。

また、窯体の床面を3回貼り直した痕跡も確認され、そのうち少なくとも1回は、床面下に碗を伏せた状態で敷きつめています。今回発見された窯の中で一番古く、1200年前後の遺構と考えられます。

■ 2号窯

調査前に窯の一部が、輪切り状態で露出していました。今回発見された3つの窯の中で一番残存状況がよく、天井部が殆ど残っていました。焼成室には、焼台が一部残っており、通焰孔付近では焼成不良品の山茶碗も出土しました。断面を観察した結果、床面を貼り直していることも分かりました。

■ 3号窯

後世の破壊を受けており、残存状況は良くありませんでしたが、燃烧室・分焰柱が検出され、焼台を置いた痕跡も残っています。出土した遺物から、2号窯より古い時代のものと思われる。床面を断ち割り、詳細について今後検討を進めていきます。



出土遺物



■ 刻印のある小皿



■ 陶丸



■ 焼成時にくっついてしまった小皿